

# ミヨウガ<sup>\*1</sup> (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	茎葉	花穂	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(日数)	使用回数	いもち病	根茎腐敗病	紋枯病	葉枯病	白絹病
ベンレート水㊟		☆	1		3	3	㊟				
	☆				*b		㊟				
モンカットFL40		☆	7		3	3			㊟		
	☆				*b				㊟		
アミスター20FL		☆	11		3	2			㊟		
	☆				*b				㊟		
オラクル顆水		☆	21		*d	3		㊟			
	☆				*b			㊟			
ランマンFL		☆	21		*e	1		㊟			
					*d	3		㊟			
		☆			*e	1		㊟			
					*b	3		㊟			
リゾレックス水		☆	14		14	2					㊟
	☆				*c						㊟
ダコニール1000FL		☆	M5		14	4			㊟	㊟	
	☆				*c				㊟	㊟	
ユニフォーム粒		☆	4・11		30	2		㊟			
	☆				*a			㊟			

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊟：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856参照）。

\*1:収穫利用する箇所が「茎葉」のものと「花穂」のものとの登録が異なる。☆で区別した。

\*a:花穂の収穫30日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで)

\*b:花穂の収穫3日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで)

\*c:花穂の収穫14日前まで(但し花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで)

\*d:生育期(但し収穫3日前まで)

\*e:植付前

# ミヨウガ\*1 (野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	茎 葉	花 穂	作用 機 構 分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	カ イ ガ ラ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ
スピノエース顆水*2	☆	☆	5		1	2	◎					
	☆	☆			*b		◎					
コロマイト乳*2	☆	☆	6		1	2					◎	
	☆	☆			*b		◎					
ガードホープ液	☆	☆	1B	劇	*a	1						浸
ネマトリンエース粒	☆	☆	1B		*a	1						◎
アグロスリン水*2	☆	☆	3A	劇	1	5	◎	◎		◎		
	☆	☆			*b		◎					
アクタラ顆溶*2	☆	☆	4A		1	3			ココ			
	☆	☆			*b							
アドマイヤー顆水*2	☆	☆	4A	劇	1	2			◎	◎		
	☆	☆			*b		◎					
ダントツ溶*2	☆	☆	4A		1	3			ナナ			
	☆	☆			*b							
トランスフォームFL*2		☆	4C		1	3		◎				
アフアーム乳*2	☆	☆	6		1	2					◎	
	☆	☆			*b		◎					
アグリメック乳*2	☆	☆	6	劇	1	2					◎	
	☆	☆			*b		◎					
コテツFL*2	☆	☆	13	劇	1	2					◎	
	☆	☆			*b		◎					
アタブロン乳*2	☆	☆	15		1	2			◎			
	☆	☆			*b		◎					
カスケード乳*2	☆	☆	15		1	3			◎	◎		
	☆	☆			*b		◎					
マイトコーネFL*2	☆	☆	20D		1	1					◎	
	☆	☆			*b		◎					
サンマイトFL*2	☆	☆	21A	劇	1	2					◎	
	☆	☆			*b		◎					
ダニトロンFL*2	☆	☆	21A		1	1					◎	
	☆	☆			*b		◎					
フェニックス顆水	☆	☆	28		1	3			◎			
	☆	☆			*b		◎					
アベンジャーFL	☆	☆	34	劇	1	3	◎					
	☆	☆			*b		◎					
ファインセーブFL*2	☆	☆	34	劇	1	3	◎					
	☆	☆			*b		◎					
プレオFL	☆	☆	UN		1	2			◎			
モレスタン水*2	☆	☆	UN		1	3					◎	
	☆	☆			*b		◎					

\*1:収穫利用する箇所が「茎葉」のものと「花穂」のものとの登録が異なる。☆で区別した。 \*2:花穂の散布にあたっては、花穂の発生時にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用すること。 \*a:定植前 \*b:花穂の収穫前日まで(但し花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで)  
 コ:コナカイガラムシ類 ナ:ナスコナカイガラムシ 浸:30分間種根茎浸漬

ミヨウガ

## ミョウガ\*1(野菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
葉枯病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダコニール1000(FL)#1 1000倍	
根茎腐敗病	植付前	1.排水を良好にする。 2.健全根茎を植付ける。	本病はピシウム菌による。
	生育期	・発生を見たら次のいずれかの薬剤を処理する。 オラクル顆粒水和剤#1 2000倍 3L/m <sup>2</sup> ランマンフロアブル#1 500倍 3L/m <sup>2</sup> ユニフォーム粒剤#1 18kg/10a	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン水和剤#1、#2 1000倍 スピノエース顆粒水和剤#1、#2 5000倍	
カイガラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 アドマイヤー顆粒水和剤#1、#2 10000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタブロン乳剤#1、#2 2000倍 カスケード乳剤#1、#2 2000倍 フェニックス顆粒水和剤#1 2000倍	
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤#1、#2 2000倍 コロマイト乳剤#1、#2 1000倍 モレスタン水和剤#1、#2 3000倍	
ネコブセンチュウ	定植前	1.床土は土壤消毒する(土壤消毒の項参照)。 2.次の薬剤を全面土壤混和する。 ネマトリンエース粒剤 20kg/10 a	

\*1: ミョウガは、収穫・利用する部位により薬剤の登録内容が異なる場合がある。

#1: 「花穂」と「茎葉」で使用時期が異なるので使用の際には注意すること。

#2: 「花穂」の散布にあたっては、花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。